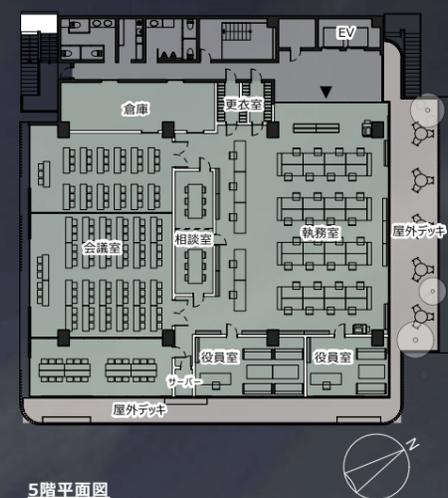
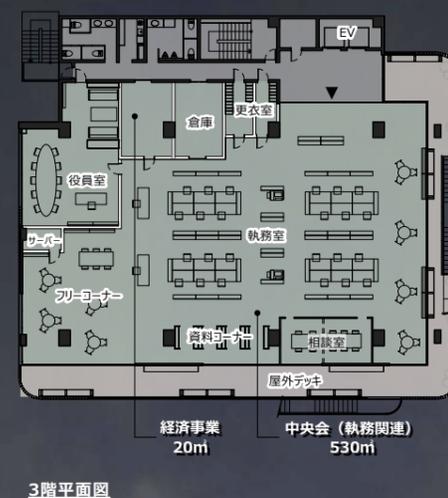




配置・平面計画

駐車場からのアクセス、10号線側からの見え方への配慮から、駐車場を北西側に、建物を南東側に配置します。また、各フロアごとに調整可能な平面計画とすることで、各団体の様々な要望に柔軟に対応します。このことは会館の外観にも反映され、建物のコンセプトをダイナミックに表現しながら実現します。



| |
|------------|
| 専有部 (区分所有) |
| 専有部 (貸室) |
| 共用部 (屋内) |
| 共用部 (屋外) |
| 屋外デッキ |

全体面積
現時点では要望面積を最大限確保する形で計画していますが、各フロアは個別に面積調整が可能な形式としています。今後打ち合わせを進めながら階の入れ替えを含め、面積と使い勝手およびコストを最適化していきます。

| 全体面積概算 (㎡) | | | |
|------------|------|-----|------|
| 階 | 専有部 | 共用部 | 計 |
| 5 | 550 | 112 | 662 |
| 4 | 311 | 201 | 512 |
| 3 | 550 | 112 | 662 |
| 2 | 540 | 123 | 663 |
| 1 | 640 | 171 | 811 |
| 計 | 2591 | 719 | 3310 |

参考単価 スケルトン：110~130万円/坪程度
別途内装：40~60万円/坪程度

光・風・人が集うエコロジカルなコミュニティハブ

支援による社会貢献を永く支え続ける会館へ

新会館の使命は、支援による社会貢献を永きにわたり支え続けることにあります。計画にあたり、以下の三つの要素を基盤とした「光・風・人が集うエコロジカルなコミュニティハブ」としての会館を目指します。

- 1. 多様な交流と発見を生むハブ空間：** ワンストップでよりよい支援を提供するために、さまざまな団体や個人が出会い、新たな発見が可能な場を目指します。多様な交流が生まれる活気ある場は、変化する社会の中で支援のかたちそのものをアップデートしていく基盤ともなります。
- 2. 持続可能性と環境負荷の低減：** 環境に配慮した設計と運用により、持続可能な建物とし、環境負荷を最小限に抑えます。
- 3. 安全性と災害対策：** 建築の安全性と耐久性を最優先とし、地震等の自然災害に対する備えを万全に整えます。

これらの視点を重視することで、ソフト・ハード両面での持続可能性を追求し、地域の経済活動を支え続けられる施設、人々に期待を持って利用され続ける施設を目指します。

設計方針

継続的に愛される新会館を実現するために下記の項目を設計方針とします。

- 各団体の事務所や会議室を効率的に配置しワンストップ支援を実現します。
- 執務空間やワークスペースをフレキシブルな空間とし柔軟な運用が可能な施設とします。
- 遠隔地からの参加可能なWEB会議等にも対応できるように最新の通信設備等を整備します。
- ユニバーサルデザインを徹底し、誰もがアクセスしやすい環境を整備します。
- 環境に配慮した建材の使用、環境シミュレーションによる形態及び設備機器の最適化によって、環境にやさしい建築とし、イニシャル・ランニングコストを抑制します。
- 緑や光、風を取り込むことで心地よい執務空間を整備します。
- 耐震性や耐火性、耐久性に優れた構造を採用します。
- 一時避難所としての機能を整備し、避難生活や救助活用に有効な屋外空間を整備します。
- その他、さまざま利用形態に対応し、新会館が継続的に愛される施設とするために関係者と話し合いながらあらゆる方策を提案・検討していきます。





▲屋外デッキ イメージ

屋外空間について

上部の各フロアーには潤い、安全、交流の3つの特性を持つ、開放的な屋外空間を整備します。

・潤い・・・屋外空間には植栽やベンチ等を適宜配置し、空間に潤いを与えます。また、植栽やルーバーなどによって光や風をコントロールし、柔らかい光と風を室内に取り込みます。

・安全・・・屋外空間は緊急時の避難や救助のためのルートとして機能し、一時避難の際には物理的・精神的な緩衝地帯として効果を発揮します。

・交流・・・特定の用途に限定せず、自由な活動ができるスペースとして開放することで、人々が自然に集まり、コミュニケーションを促進する場となります。一部、コワーキングスペースとして開放したり、交流イベントや屋外研修などの場としても活用することができます。



▲中央会役員室 内観イメージ



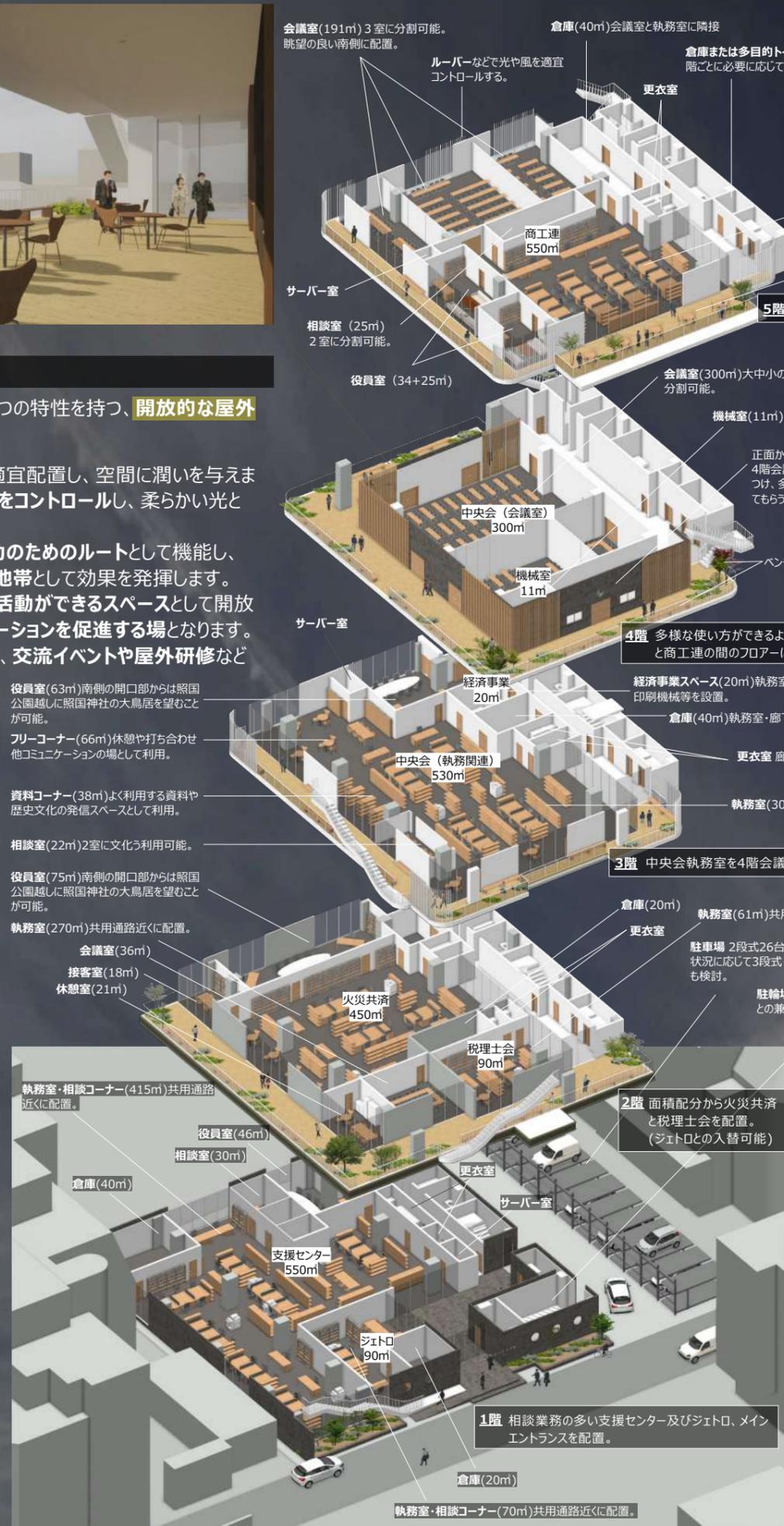
▲屋外デッキ 外観イメージ



▲エントランス 外観イメージ



▲10号線からの外観イメージ



▲各階アイソメ図



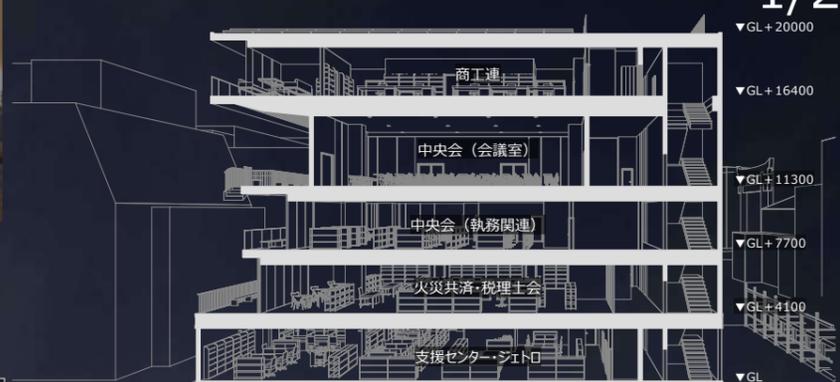
▲商工連執務室 内観イメージ

執務室(216m)共用通路近くに配置。開放的な屋外デッキと隣接。
屋外デッキ 休憩やコミュニケーションのスペースとして利用可能。適宜テーブルなどを設置。

5階 最上階の要望があり、まとまったスペースが必要な商工連を5階に配置。



▲ホール壁 正面イメージ



▲断面イメージ

構造計画・断面計画

主要な構造は耐震性・耐久性を考慮して鉄筋コンクリート造として計画します。各フロアーを一部メインフレームから持ち出す構成とすることで、フロアーごとの平面計画の自由度を高めるとともに、開かれた会館としてふさわしい軽快で自由な表情を外観に与えます。各フロアーの階高は構造寸法及び入居団体の要望、および外観のバランス等を考慮した上で制限高さ内の範囲で調整していきます。

その他の施策提案

その他、新会館のコンセプトを総合的に実現するために今後検討する内容として下記の項目を提案します。

- ・エントランスに**インタラクティブなディスプレイやデジタルサイネージの設置**・・・最新の情報や支援施策を来館者に瞬時に伝達し、**活力あふれる雰囲気**を創出します。
- ・会館の**一部開放・コワーキングエリアの配置**・・・一部のエリアを開放して来館を促すことで**コミュニケーションの契機**を創出します。これにより、会館はより生き生きとし、**人々にとって親近感の持てる場所**になります。
- ・館内スタッフや利用者、一般の人に開放した**カフェスペースの設置**・・・カフェスペースはより多くの人々を会館に招き入れ、**働く環境を豊かにし、地域社会とのつながりを深めて、文化の醸成を促進**します。
- ・**鹿児島特産材の使用**、地域工芸品や地元アーティストの**ギャラリースペースの設置**・・・訪れる人にインスピレーションを与え、**地域ブランディングと文化活動に寄与**します。
- ・**連携施設とのネットワーク構築**・・・他地域の会館や支援機関と連携し、情報交換や共同プロジェクトを実施することで、**ネットワークを強化し、新たなビジネスの可能性や交流、連携の機会**を創出します。

これらの取り組みを通じて、本会館が**活気あふれる場**となることを目指します。**ソフトとハード両面での本館自体に対する総合的なブランディングを進めることは、支援対象者への前向きなメッセージにもなります。**

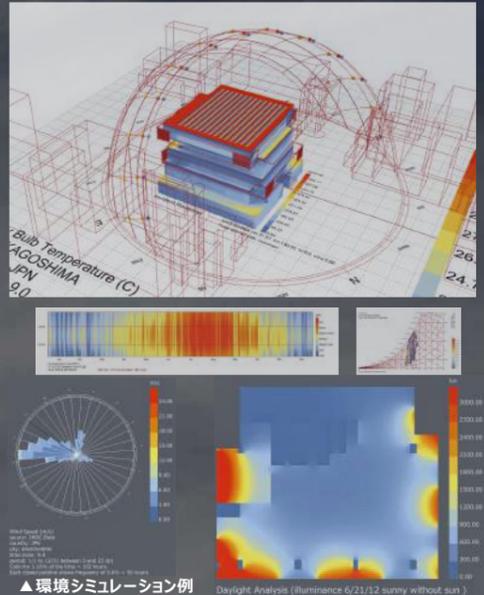
設計における最新技術の導入：BIMの活用と環境シミュレーション

・**3Dモデリングを中心としたBIMの活用**により、作業効率を大幅に向上させることができ、より多くの時間をシミュレーションとデザイン作業に注げることができます。さらに、作成した3Dモデルはクラウドを通じて共有でき、関係者がいつでもアクセスして閲覧できるほか、**VRゴーグルを使って疑似体験も可能**になります。

・3Dモデルを活用した以下のような**環境シミュレーション**を行うことで、**快適で環境にやさしい建築**を実現します。

- ・**気象分析**・・・鹿児島県の気象データを読み込むことで、気候にあわせた解析を行うとともに、気候の大まかな傾向の把握と対策を練ることが可能です。
- ・**日射量解析**・・・夏季は開口部への日射を遮り積算日射量が小さくなるように、冬季は開口部から日射を取り入れ積算日射量が大きくなるように、配置・断面形状・シェード・開口の位置を検討します。
- ・**光環境解析**・・・昼光利用による十分な照度が得られるように、建物形状や開口部をデザインします。また、特定時間の不快 glare も確認し対策を行います。
- ・**風環境解析**・・・通風有効時の卓越風を適切に取り入れられるように建物形状や開口部の位置・形式などをデザインします。また、年間を通して、感染症対策としての通気に配慮します。
- ・**温熱環境解析**・・・自然室温における快適な時間帯を最大化するように最適な外皮性能・空調設備等を設計し最適化します。

これらにより、**快適な空間を実現しつつ、建物の性能を明確化し、適切な設備計画**を行います。このことは、**初期費用、運用コスト、そして環境負荷を削減**することにつながります。



▲環境シミュレーション例